

2-7 留萌支庁南部における地震活動

Seismic activity in the southern part of Rumoi region

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

2004年12月14日14時56分頃、北海道留萌支庁南部を震源とするマグニチュード (Mj) 6.1の地震が発生し、苫前町で震度5強、羽幌町で震度5弱をそれぞれ観測した。その後、同日15時1分、17時54分にそれぞれMj4.7、Mj4.8、さらに翌日15日2時29分にMj4.6の余震が発生している。2004年12月14日～2005年2月9日までの約2ヶ月間の余震活動の時間推移は概ね減衰傾向を示している(第1図)。

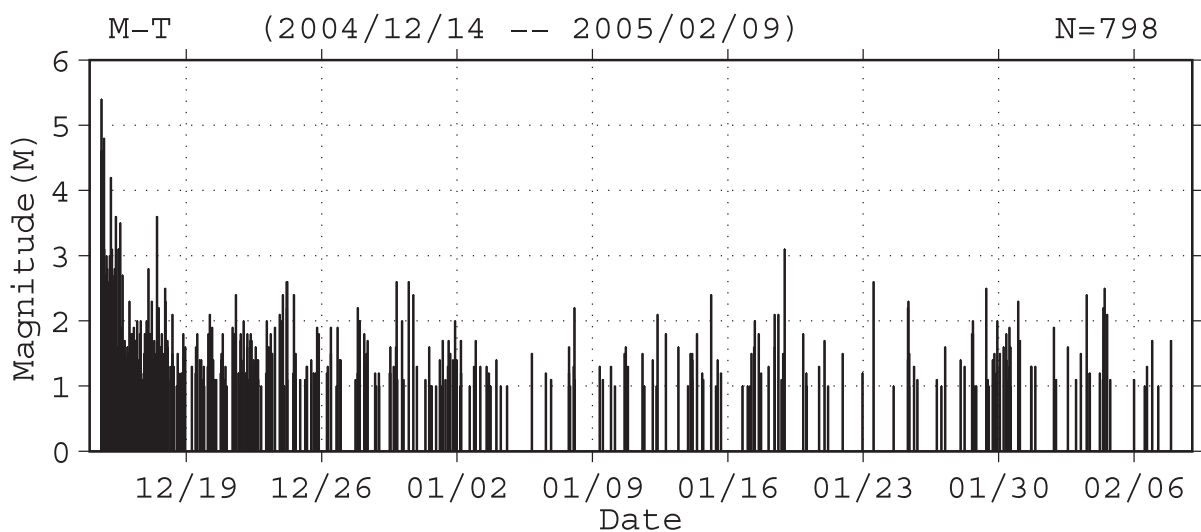
第2図には、この期間に観測された余震活動(赤○)と本震の位置(黄★)の震央分布を示した。さらに図中には1997年10月1日～2004年12月13日までの気象庁一元化処理による震央分布(橙○)をあわせて示した。防災科研F-netのモーメントテンソル(MT)解によると本震のメカニズムは、モーメントマグニチュード5.7(Mw)と推定されており、東西方向に圧縮軸をもつ逆断層タイプである(第2図)。

また、今回の地震は、過去の歴史地震・被害地震¹⁾²⁾のうち1910年(M5.3)と1918年(M5.8)の二つの地震とほぼ同一の場所で活動したものと考えられる。

(針生義勝)

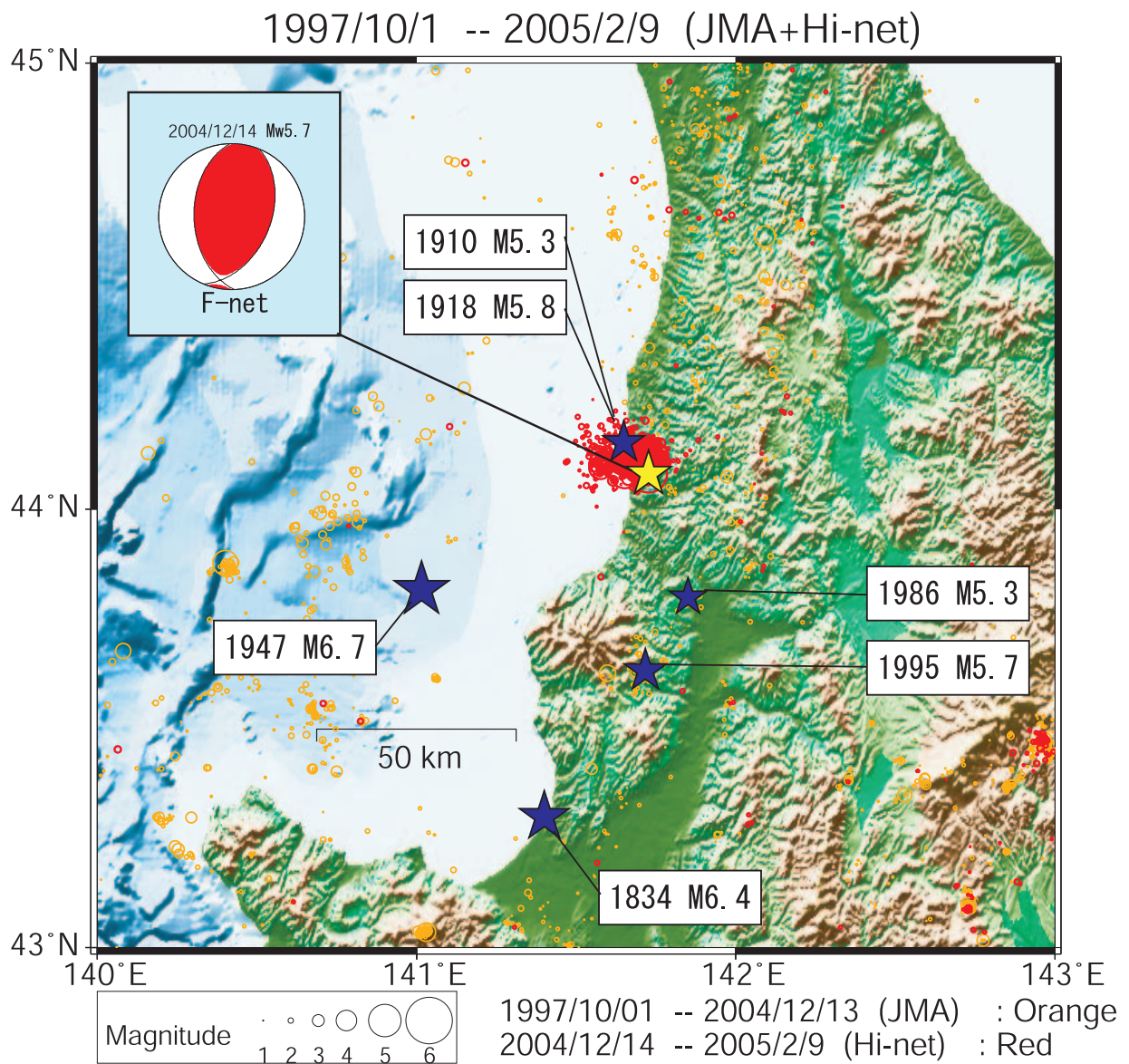
参 考 文 献

- 1) 国立天文台, 2002, 理科年表, 丸善
- 2) 宇佐美龍夫, 1996, 新編日本被害地震総覧, 東京大学出版会



第1図 余震活動の時系列・M-T図。

Fig.1 Time series of aftershock activity. Magnitude-Time diagram for the aftershocks.



第2図 留萌支庁南部における地震活動（深さ 25km 以浅）。

黄★は本震 (Mj6.1), 赤○は Hi-net (2004 年 12 月 14 日 ~ 2005 年 2 月 9 日), 橙○は気象庁一元化处理 (1997 年 10 月 1 日 ~ 2004 年 12 月 13 日) の震源をそれぞれ示す。青★は歴史地震・被害地震¹⁾²⁾ の分布を示す。メカニズムは防災科研 F-net による本震の MT 解を示す。

Fig.2 Distributions of seismic activity in the southern part of Rumoi region (focal depth<25km). Yellow star indicates the epicenter of the mainshock. Red circles show the aftershocks determined by NIED Hi-net (Dec. 14, 2004 - Feb. 9, 2005). Orange circles denote the epicenters determined by JMA (Oct. 1, 1997 - Dec. 13, 2005). Blue stars indicate the historical severe earthquakes. The MT solution of the mainshock was determined by the NIED F-net.